



漢方薬製造で培ったエキス抽出技術を磨き「健康創造総合企業」を目指す

大峰堂薬品工業株式会社 奈良県大和高田市

大峰堂薬品工業株式会社は、自社一貫製造工場を持ち、顧客の要望に沿った漢方薬の商品化提案を得意とする製薬企業。熱水等では抽出が難しい成分を、高圧の二酸化炭素で抽出する等、創業以来の漢方薬製造で培ったエキス抽出技術を磨き、独自性の高い商品化提案を実現している。

辻将央社長は31歳の若さで同社の5代目社長に就任して以来、社内改革に奔走し、業績のV字回復に成功した。

同社は今後、より高品質で安価な医薬品・天然エキスの製造を通じて、全ての人の健康に貢献する「健康創造総合企業」を目指す。

会社概要



会社名：大峰堂薬品工業株式会社
所在地：奈良県大和高田市根成柿 574
電話：0745-22-3601
FAX：0745-23-2540
創業：1900（明治33）年4月
設立：1947（昭和22）年1月
代表者：代表取締役社長 辻 将央
資本金：4,000万円
従業員：152名（パート含む・2016年1月現在）
事業内容：医療用漢方薬・一般用医薬品の製造販売、天然素材の研究等
URL：<http://www.ominedo.co.jp/>



本社ビル・工場
(左)



奈良工場 (右)

漢方薬製造で培ったエキス抽出技術を磨く

1900年創業の大峰堂薬品工業株式会社は、医療用漢方薬、OEM（相手先ブランドによる製造）及びプライベートブランドでの一般用医薬品の製造販売を主軸とする製薬企業である。原料となる生薬の加工から製品化まで一貫製造できる、医薬品GMP*1対応の自社工場を持ち、顧客の要望に沿った漢方薬の商品化提案を得意としている。

また、2006年4月に竣工した奈良工場（五條市住川町）には、熱水等では抽出が難しい成分を、高圧の二酸化炭素により安全に抽出する超臨界*2抽出プラントを装備。創業以来の漢方薬製造で培ったエキス抽出技術を磨き、独自性の高い商品化提案を実現している。

2015年11月には奈良第二工場（同所）も竣工。円安による原材料高を見据え、設計には徹底的にこだわっており、製造効率・能力の向上で高い競争力を発揮している。

- *1 医薬品GMP…医薬品の製造管理および品質管理に関する基準。
- *2 超臨界…臨界点（気体と液体の変化が起きる温度・圧力の限界）を越え、気体の拡散性と液体の溶解性を併せ持つ状態。

経営危機の中、盛和塾と出会い奮起

同社代表取締役社長の辻将央氏（47歳）は、1993年同社に入社。2000年、31歳で5代目社長に就任したのは、漢方薬市場が不振にあえいでいた最中のことであり、その歩みは決して順調とは言えなかった。

2004年、売上の8割を占める主要取引先向け製品の増産のため工場用地を取得した矢先、その取引先が経営破綻。同社創業以来初の赤字で経営危機に瀕する中、辻社長は京セラ創業者・稲盛和夫氏の主宰する経営塾「盛和塾」と出会った。

「困難の連続を、無意識のうちに外部環境のせいにしていた」という辻社長は、稲盛氏との出会いを契機に「今、目の前にある状況は、心の投影。社員との関係も、取引の大半を1社に頼っていたことも、自身が招いた結果」と悟ったという。

奮起した辻社長は、社員とのコミュニケーションが何より大切と考え、社員を数人ずつ居酒屋に誘い、自社の現状や課題、将来を語り合った。「リーダーが明確なビジョンを語り、進むべき次のステップを示せば、社員は納得して自分から動いてくれる」と熱く語る辻社長は、自らも行動と結果で社員の信用を集め、一致団結して事態を打開する体制を整えた。

社内改革に奔走、業績のV字回復を達成

辻社長はまず、組織のスリム化に着手。社員の3人に1人が管理職という歪^{いびつ}な構造の是正に向け「本人の意志を尊重したうえで、希望者には管理職待遇のまま研究職への配置転換を進めた（辻社長）」ことで、意志決定のスピードが向上した。

次に製造コスト削減に取り組んだ。主要取引先の破綻処理を担当する人物から納入価格の引下げを要請され、その人物がトヨタ式生産管理に詳しいと知った辻社長。「コスト削減で想定以上の利益が出た場合、2社で等分する」との条件を出したところ、生産管理のプロから指導を受けることができた。その成果はすぐに表れ、効率が向上しただけでなく、現場と管理者が一丸となって改善に取り組んだ結果、社内の結束も強まった。

また、採算性向上のため、辻社長は先頭に立って納入価格の引上げを交渉。原価計算を徹底した結果、最大で従来価格の2倍となる値上げ要請に難色を示す取引先を「赤字製品を売り続ければ、自社の経営が傾き製品供給ができなくなり、商道徳にもとる」との信念で説得した。

さらに販売価格に見合わず製造を中止した製品に替えて、高付加価値製品を開発し、営業の最前線で新規開拓にも奔走した。

これらの取組が結実し、1年で業績のV字回復を達成。2008年には盛和塾の中でも特に優秀な経営者に贈られる「稲盛経営者賞」を受賞した。

辻社長は、様々な苦難を振り返りつつも「それを苦勞と感じたことはない。目的があれば、あらゆる出来事は次のステップに進むための気づきに変えることができる」と語る。

全ての人の健康に貢献する「健康創造総合企業」を目指す

「我々が今いるのは、これまで先輩たちが築いてくれた会社という土台あってこそ」という辻社長。夢の一つは「次の世代に望ましい形でバトンを渡し、社員の幸せにつなげる」とこという。

もう一つは「より高品質で安価な医薬品・天然エキスの製造を通じて、病める人も健やかな人も、世界中全ての人の健康に貢献する」とことである。

同社では、漢方薬やアーユルヴェーダ（インドの伝統医学）に用いられる生薬、西洋ハーブ等様々な天然素材を研究し、エキス抽出、活性試験を通じて、医薬品だけでなく化粧品や健康食品等、新たな分野への応用を目指している。

2007年にロンドンで伝統医学素材研究法人を設立、2010年にはドバイでアンチエイジングクリニックを開業した他、シンガポールで漢方薬を販売する等、世界進出の足がかりも築いている。

同社は今後もエキス抽出技術を磨き、全ての人の健康に貢献する「健康創造総合企業」を目指し前進を続ける。（太田宜志、吉村謙一）



超臨界抽出プラント装置
(左)



製造効率・能力向上で高い競争力を発揮する奈良第二工場 (右)